

原典 賀川玄悦『産論』巻一

病候に日く。妊娠二三か月、血塊を下す。治法に日く。当に剖て之を視る。恐らくは是傷産也。已に傷産を知らば当に折衝飲を与べし。但血塊を下す者は乃ち是傷産にあらざるを知る也。

処方構成

桃仁 5 当帰 5 牡丹皮 3 川芎 3、芍薬 3 桂皮 3 延胡索 2
牛膝 2、紅花 1 (g) 九味

<u>方意</u>		<u>参考 (牛膝散)</u>
当帰		当帰
芍薬	当帰芍薬散	芍薬
川芎		
桂皮		桂皮
桃仁	桂枝茯苓丸	桃仁
牡丹皮		牡丹皮
牛膝	駆瘀血	牛膝
紅花	+	
延胡索	鎮痛	延胡索
		木香

駆血、鎮痛を目的として主として婦人科疾患に用いる。

使用目標 (漢方治療百話第5集より)

賀川玄悦の経験方で、産論に出ている処方で、「妊娠二三か月血塊を下すを治す」としてあるが、瘀血によって下腹部に痛みを起し、また骨盤腔内に痛みを起すものに用いる。月経痛によく用いられ、駆瘀血に潤血と補血を兼ね、気血をめぐらして痛みを止める処方である。

適応疾患 (診療医典より)

下腹部痛、瘀血による出血、子宮付属器炎（亜急性または慢性に移行し、下腹部に抵抗圧痛があり、時々自発痛があって帯下を伴うものによい。付属器炎の長引いたものに本方を用いることが多い。）、月経困難症（炎症性のもので内膜炎、骨盤腹膜炎、付属器炎などで亜急性または慢性となった困難症には本方がよい。）
子宮後屈、子宮筋腫、子宮内膜症

他の処方との鑑別 (龍野一雄 漢方医学大系8)

月経困難症（月経不純、月経困難、月経過多、月経過少）

実証なら桂枝茯苓丸、折衝飲、虚証なら当帰芍薬散、寒証なら芎帰膠艾湯を用いる。

桂枝茯苓丸：月経は過多または過少いずれの場合でも差し支えないが、体格よく、頭重、肩凝りなどがあり、実証で脈腹とも緊張あり、下腹部に抵抗圧痛を認める。
折衝飲：桂枝茯苓丸料に訴えがよく似ているが、桂枝茯苓丸料のように下腹部に圧痛や抵抗が著明でないもの。

当帰芍薬散：月経は多いことも少ないこともあるが、どちらかといえば過多の方が多。冷え症で貧血性、小便近く、下腹部鈍痛、虚弱体質で疲れやすく、頭重、肩凝り、めまいなどを訴える。虚証で脈腹とも弱い。

芎帰膠艾湯：月経過多で著しく冷え症、下腹部に鈍痛を訴えることがある。虚弱質で脈腹は著しく弱い。

折衝飲の使用例

1. 子宮筋腫（敬節著作集より）

西瓜のように大きい筋腫があり、月の大半は子宮出血のために悩んでいる婦人に折衝飲を与えたところ、一ヵ月たらずして出血止み、その後一年近く月経なく。筋腫も半分程に縮小してしまった例がある。また折衝飲は月経困難や月経痛などがあって血塊を下すものに用いてよい。

2. 月経困難症（敬節著作集より）

月経困難症によく用いられる薬方に桂枝茯苓丸、当帰芍薬散、折衝飲、当帰建中湯などがあり、私の経験では、月経初日に腹痛を訴える患者には桂枝茯苓丸の証が多く、月経のすんだ後で腹痛を訴えるものには、当帰建中湯の証が多く、その疼痛も激しい。

生理のはじめに塊状の出血があり、生理痛を伴うものには折衝飲がよく効くようである。（漢方治療百話第7集）

3. 排卵痛（症例による漢方治療の実際より）

40歳女性の会社員で、24歳事に虫垂点手術を受け、癒着のため不妊となった。月経不順で月経痛があるが、それよりも、問題は排卵痛（腰痛、下腹痛）で、急な痛みのために夜目覚める。時々痔出血、下痢をし、肩が凝りやすい。はじめ当帰芍薬散加甘草を一ヵ月与えるも無効。次に当帰建中湯を三ヵ月与えるも無効。桂枝茯苓丸合芍薬甘草湯にし、少し有効であったが、なお激しい排卵痛がとれない。

そこで冷え症であることを考慮し、「産論」の折衝飲に変方。芍薬甘草湯合方の意味で甘草を加味する。これでやっと効果があり、時々休みながらも8ヵ月ほど服用した。その結果、長年の排卵痛がまったく消失した。

折衝飲は月経困難にはよく用いられるが、排卵痛に用いたのははじめての経験であった。折衝飲は桂枝茯苓丸料に当帰芍薬散料を合わせたような薬方で、これに延胡索、牛膝、紅花を加えて、瘀血による疼痛を鎮めることを目的としたもので、賀川玄悦の創方である。

古典にみる折衝飲の口訣

浅田宗伯『勿誤薬室方函口訣』

妊娠二三ヵ月、血塊下るを治す。按ずるにこの方、牛膝散に木香を去り、紅花を加ふ。産後、悪露尽きざる者、及び婦人瘀血に属する諸病に用いて宜し。世医は桂枝茯苓丸と同様に見做せども桂枝茯苓丸は、~~瘀血~~を主とするに此の方は行血和潤を主とするなり。

津田玄仙『饗庭家口訣卷12』

婦人一切の瘀血を治するの方。只此一方を用いて瘀血の諸症を治すべし。ほかに方を求むべからず。

日本東洋医学会雑誌
和漢医薬会雑誌

検索した範囲で見つからず。

月経困難症・子宮内膜症の漢方治療

The effects of Kampo prescriptions in the treatment of dysmenorrhea and endometriosis

福島峰子

秋田大学 医療技術短期大学部 教授, 学部長

表1 瘀血の診断基準(寺沢)¹⁾

病態	男	女
眼輪部の色素沈着	10	10
顔面の色素沈着	2	2
皮膚の甲錯(肌の荒れ)	2	5
口唇の暗赤化	2	2
歯肉の暗赤化	10	5
舌の暗赤紫化	10	10
細絡(telangiectasis)	5	5
皮下溢血傾向	2	10
手掌紅斑	2	5
臍傍圧痛抵抗 左	5	5
右	10	10
正中	5	5
回盲部圧痛・抵抗	5	5
S状部圧痛・抵抗	5	5
季肋部圧痛・抵抗	5	5
痔疾	5	2
月経障害		10

[判定] 0～20: 非瘀血状態
21～39: 軽度瘀血状態
40～ : 重度瘀血状態

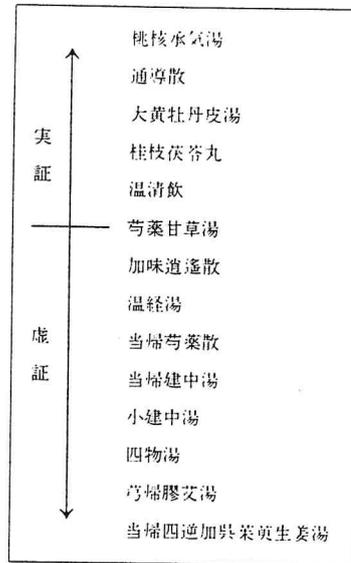


図1 月経困難症に対する方剤の虚実分類

表2 月経困難症(子宮内膜症)の症状による漢方案の選び方(村田)²⁾

漢方薬名	四物湯	当帰建中湯	当帰芍薬散	芍薬甘草湯	温清飲	加味逍遙散	桂枝茯苓丸	小柴胡湯	桃核承気湯	大黃牡丹皮湯
症状の目安										
体質	虚	虚	虚	中間	中間	中間	中間	実	実	実
月経前から痛む				◎	○	○	◎	○	◎	○
月経が始まって痛む	○	○	◎	◎	○	○				
月経不順	◎	○	◎	○	○	◎	◎		○	
月経前緊張症			○		○	○	◎	○	○	○
月経中の風邪								◎		
腰痛	○	○	○	○		○	○	○	○	○
下腹部痛	○	○	◎	○	○		◎		○	○
頭痛			○		○	○			○	
いろいろ			○			○				
のぼせ					○	◎	◎	○	◎	○
冷え	◎	◎	◎		○	○	○	○	○	○
皮膚あれ	○				◎		○			
貧血	◎	○	◎		○			○		
便秘					○	○	○	○	◎	◎
痔疾		○	○	○			◎	○	○	○

○=適応 ◎=最適

表3 月経困難症に用いられる3大処方の生薬の漢方的薬能(効力の程度を卍, 卍, +, -とした。(勝田正泰原著の改変)³⁾

生薬	桃仁	桂皮	芍薬	茯苓	+の合計
駆瘀	卍	+	+		5
鎮静		+	+	卍	4
鎮痛		卍	卍		4
利水		+	+	卍	4
消炎	+	+	+		3
通便	卍				2
健胃				+	1
性	平	温	微寒	温	

表4 月経困難症に用いられる3大処方薬の生薬の知られた薬理作用 (山田光胤, 丁宗鉄原著の改変)³⁾

薬理作用	生薬				
	桃仁	桂皮	芍薬	茯苓	+
血液凝固抑制作用	+	+		+	3
抗アレルギー作用	+	+	+		3
抗炎症作用	+	+	+		3
鎮静・鎮痛・鎮痙作用		+	+		2
末梢血管拡張作用		+	+		2
利尿作用		+		+	2
免疫賦活作用			+	+	2
解熱作用		+			1
抗菌作用		+			1
胃腸運動促進作用			+		1
抗胃潰瘍作用				+	1

表5 子宮内膜症に対するDanazol+桂枝茯苓丸併用の効果

	症例数	消失	軽快	不変	悪化
月経困難症					
下腹痛	18	18 (100.0%)	0	0	0
腰痛	14	13 (92.9%)	1 (7.1%)	0	0
排便痛	1	1 (100.0%)	0	0	0
性交痛	2	2 (100.0%)	0	0	0
内診時疼痛	20	15 (75.0%)	5 (25.0%)	0	0
ダグラス窩硬結	6	2 (33.3%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	0
子宮可動性制限	16	7 (43.8%)	7 (43.8%)	2 (12.5%)	0
腫瘤縮小	4	1 (25.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	0

(24例中)

表6 副作用の検討

症状	方法		Danazol 200mg (71例)		Danazol 400mg (23例)		Danazol, 桂枝茯苓丸同時投与 (14例)	
	発生例	発生率%	発生例	発生率%	発生例	発生率%		
皮膚症状								
皮脂分泌増加	4	5.6						
多毛	2	2.8	1	4.3				
痤瘡を含めた発疹	11 (3)	15.5	3 (1)	13.0				
運動器官症状								
肩こり	8	11.2						
筋肉痛, 関節痛	4 (3)	5.6	1	4.3	1	7.1		
精神神経症状								
いらいら	6	8.4	1 (1)	4.3	1	7.1		
指のしびれ					2 (1)*	14.3		
疲労感			1 (1)	4.3				
消化器症状								
嘔気	2 (1)	2.8	1 (1)	4.3	1 (1)*	7.1		
生殖器症状								
乳房縮小感	1	1.4						
不正出血	4 (2)	5.6	4 (2)	17.4	2	14.3		
外陰そう痒感	1 (1)	1.4			1	7.1		
その他								
浮腫	2	2.8						
GOT, GPT 上昇	5 (1)	7.0	3 (1)	13.0	1	7.1		
体重増加(4 kg 以上)	3 (1)	4.2	2	8.7	3	21.4		

() は副作用発現のため桂枝茯苓丸を途中から併用例

() *はダナゾールを途中で中止例

折衝飲・紅花・延胡索

藥局文献檢索資料

1997. 9. 8

紅花の薬理学的研究—中枢に対する作用及び抗炎症作用—
-笠原 義正-

生薬：紅花
成分：
処方：

雑誌名：生薬学雑誌 43巻 1989年 4号 331頁 通算 頁

報告：実験 標的器官：脳・神経系
剤形： 投与経路： 投与量：

併用薬：

内容：実験結果より①紅花エキスは、中枢に対して抑制的に作用し、鎮痛作用、鎮静作用を持つ事が明らかとなった②carragenin浮腫抑制作用、血管透過性抑制、好中球数の減少により抗炎症作用を有する事が報告された

生薬の薬理から漢方の薬効へ—紅花—

生薬：紅花
成分：
処方：

雑誌名：THE KAMPO 8巻 1990年 2号 22頁 通算 頁

報告：その他 標的器官：
剤形： 投与経路： 投与量：

併用薬：

内容：紅花
①成分：carthamin、saflor yellow、luteolin-7-glucoside、リゲナン
他②薬理作用：子宮収縮作用、血圧降下作用、抗心筋梗塞抑制作用、他
③薬能④薬理から薬能へ